甲状腺のしこり 02

細胞診を受ける方へ

細い針でしこりの細胞を取り、顕微鏡で調べる検査です。数十秒で終わり、麻酔も入院も要りません。

Q どんな検査ですか

採血と同じくらいの太さの針を使います。**痛みも採血と同じくらい**なので、麻酔は使いません。

超音波でしこりを見ながら針を進め、**注射器で細胞を吸い取ります。**1か所あたり数十秒で終わります。

十分に細胞を採るため、1か所につき最低2回刺します。取れた細胞の量や状態によっては、さらに回数が増えることもあります。

Q 終わったあとは

針を刺したところを**1分ほど押さえて**止血します。**青あざが1週間ほど残ることがあります**が、自然に消えます。

検査当日は、血のめぐりがよくなることを控えてください。激しい運動・飲酒・湯船につかる入浴・首のマッサージなどは、出血しやすくなります。

Q 結果はどう出ますか

結果が出るまで**10日から2週間**かかります。**ClassⅠからⅤの5段階**で報告されます。

Class	見えた細胞	このあと
Ⅰ・Ⅱ	採れた細胞に、悪性を疑うものはありません	これまでどおり経過をみます
Ⅲ	判断が難しい細胞があります	もう一度調べるか、経過をみます
Ⅳ	悪性の可能性が高いと考えられます	治療について相談します
Ⅴ	悪性と考えられます	治療について相談します

がんの進み具合を示す「ステージ」とは別のものです。数字が大きいほど進んでいる、という意味ではありません。

Q 細胞診だけで決まりますか

細胞診は、**ごく少数の細胞から良性・悪性の可能性を判断する検査**です。**これだけで確定することはむしろ少なく**、最終的には手術で取り出した組織を調べて確かめます。

ClassⅠ・Ⅱであっても、手術で取り出して調べると悪性のこともあります。ClassⅢ（判断が難しい）と報告されることも珍しくありません。

また、**細胞が十分に採れず、判定そのものができないこともあります**（検体不適正）。血が多く混じったときや、嚢胞（液体のたまり）のときに起こります。

ClassⅢや検体不適正という結果は、検査がうまくいかなかったわけではありません。もう一度調べるか、超音波で経過をみるかを、一緒に決めます。

Q 血をサラサラにする薬を飲んでいる方へ

必ず事前にお伝えください。出血しやすくなるため、検査の進め方を調整します。

出典：日本内分泌外科学会 甲状腺腫瘍診療ガイドライン2024／甲状腺癌取扱い規約

診療目的での複製は自由に行えます。